

園芸拠点施設基本計画

(抜粋)

平成29年3月

1. 計画の目的

(1) 計画の目的

本計画は、過年度に検討された園芸拠点施設基本構想の基本的な考え方に基づき、園芸 LABO 施設・展示ハウス・直売所施設・レストラン施設・屋外施設（薬草展示園、福井ゆかりの果樹園、芝生広場、施設内道路、駐車場等）アクセス道路、その他必要な施設の企画、規模検討、配置計画、集客方法を具体化するため、園芸拠点施設基本計画を策定するものである。

【園芸拠点施設の整備に関する基本的な考え方】

園芸研究センターについて、大規模園芸や果樹の技術開発に加えて、新たな中山間地域ビジネスに向けた薬草の展示や、園芸について理解を深める体験や学習を通じて、子ども達や県民が「農」・「食」・「健康」を体感でき楽しめる園芸拠点施設として整備する。

また、地元で生産された農産物の直売所および、薬膳や地域食材を使った料理を提供するレストランを整備する。

(2) 対象範囲

福井県園芸研究センターの北側隣接地（約 23,000 m²）を対象とする。



2. 対象地の概況

(1) 位置および周辺状況

園芸拠点施設の整備対象地は、美浜町の西側、久々子湖に近接した場所に位置し、若狭梅街道沿いに位置すると共に、国道27号バイパスからも至近距離に位置する。

広域的には、舞鶴若狭自動車道を経由して、アクセスしやすい立地条件となっている。

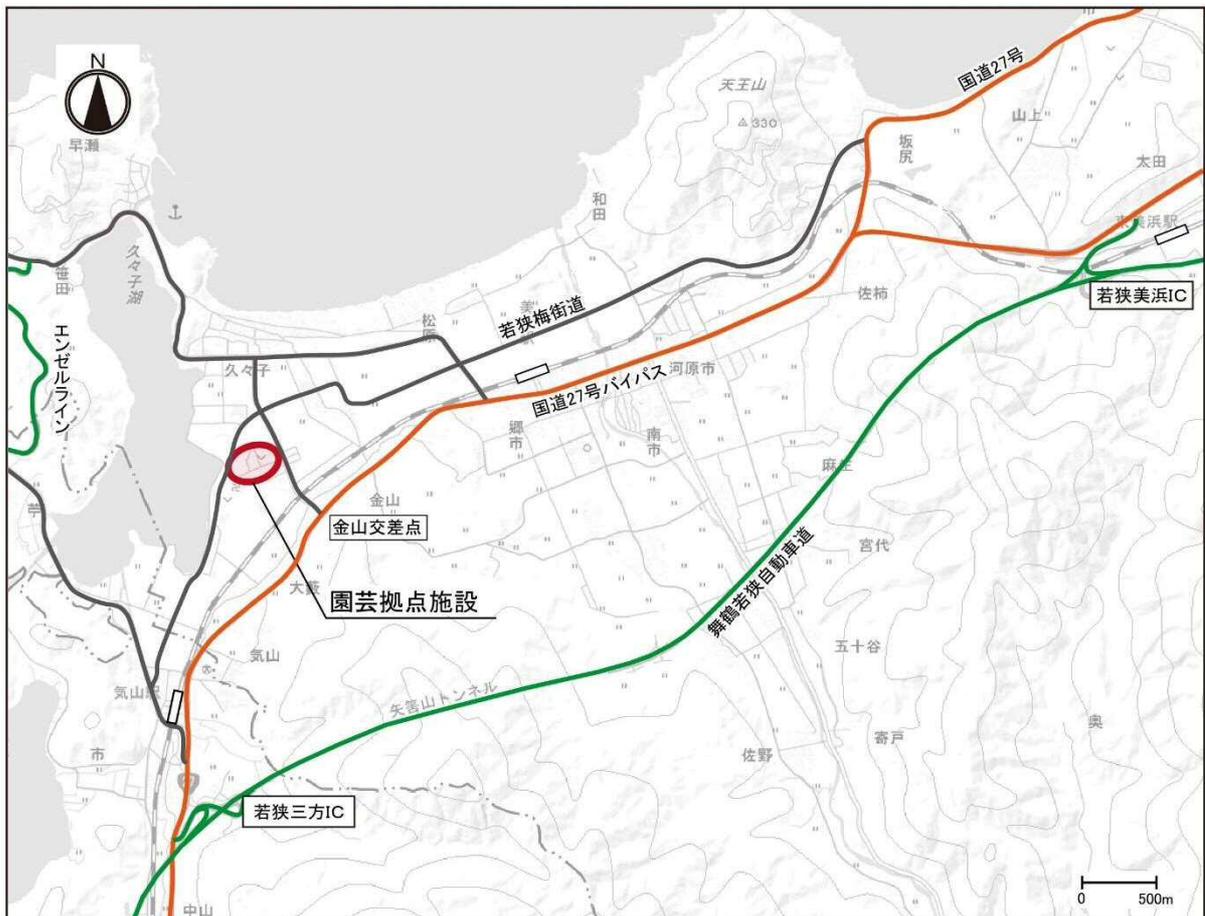
車での所要時間（高速・一般道）

敦賀から	約25分（一般道）
福井から	約1時間
名古屋から	約1時間40分
京都から	約2時間
大阪・神戸から	約2時間30分

■ 広域図 ■



■ 交通アクセス ■



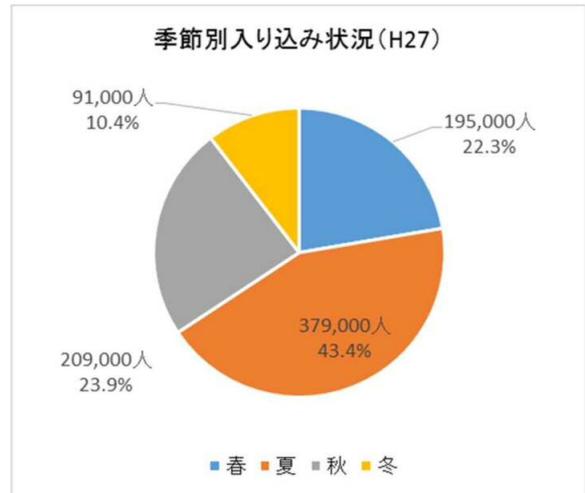
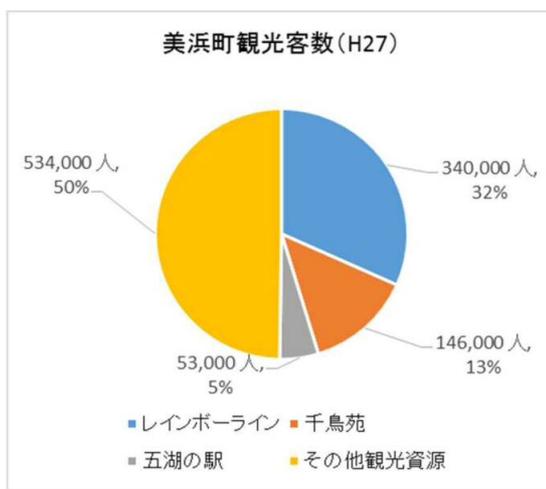
(2) 美浜町の観光概況

<観光入り込み状況>

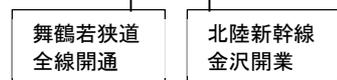
美浜町の観光客数（平成 27 年）は、874,000 人となっている。

観光入り込みの特徴として、夏の観光客数が多い点、レインボーラインの利用者が最も多い点が挙げられる。また、来訪者の特徴として、「自然体験」「スポーツ・レクリエーション」を目的に訪れる人が多い。

平成 17 年からの観光客数の推移を見ると、福井県全体では、北陸新幹線や舞鶴若狭道開通などにより観光客数は増加傾向にあるが、美浜町では微増程度にとどまっている。



資料：福井県観光客入込数（推計）平成 27 年



<周辺観光資源>

美浜町には、三方五湖および三方五湖の周遊ルートであるレインボーライン、水晶浜海水浴場をはじめとする海水浴場、千鳥苑や五湖の駅といった物販・飲食施設などの観光資源がある。久々子水神公園広場では、4月から11月にかけて、美浜ハートフル朝市を開催し、地元農産物・海産物を販売している。

また、若狭町（三方五湖周辺）には、若狭三方縄文博物館や西田梅林、道の駅三方五湖などがある。

■ 周辺観光資源 ■



<主な特産品>

美浜町は若狭湾や三方五湖でとれる海の幸をはじめ、さつまいもや大根などの農作物がある。



さば寿司



へしこ寿司



さつまいもご飯



ふぐ

出典：美浜町観光HP

(3) 上位・関連計画での位置づけ

①福井県観光新戦略（H27.3）

<基本理念>

福井県観光新戦略の考え方として、本県の「美」や「学び」などを活かして、他の土地では味わうことの出来ない「楽しさ」や「いやし」「心のうるおい」「知的好奇心の刺激」などの感動を与え、心に残る旅を提供することなどが位置づけられている。

○福井県の「美」・・・「美観」「美食」「美技」「美湯」「美心」

「美食」・・・コシヒカリ、越前がに、若狭ふぐ、若狭かれいなど

○福井県の「学び」

学びの要素・・・「恐竜」「大本山永平寺」「若狭の文化財群」「食育」など

<基本戦略> ※本計画に係る戦略を抜粋

●花と光をテーマにした新たな観光地づくり

・梅、山桜、あじさい、ひまわり、コスモス、紅葉、椿など、若狭路各地で四季を通じて花が楽しめる観光を促進します。

●福井の食を味わえる一流店づくり

・福井の旬の食材を使った料理を福井らしい景観などとともに楽しめる「福井レストラン（仮称）」を整備します。

●食文化を学び、収穫や料理体験ができる場づくり

・自然環境を学び、ハーブや薬草などの収穫体験と、山野草等を活かした料理が楽しめる場を整備します。

●教育旅行の誘致促進

・自然体験・環境・農林漁業等の体験実習の受入の調整やサービスをワンストップで提供できる組織体制を整備するほか、廃校舎等を利活用した拠点施設を整備し、小中学生の体験学習や遠足を誘致します。

②美浜町観光振興計画（H26.3）

<将来像>

自然が美しく輝き、産業や生活文化、そして人が生き活きと輝くことによって、多様な来訪者が集うまち

<定性的な目標>

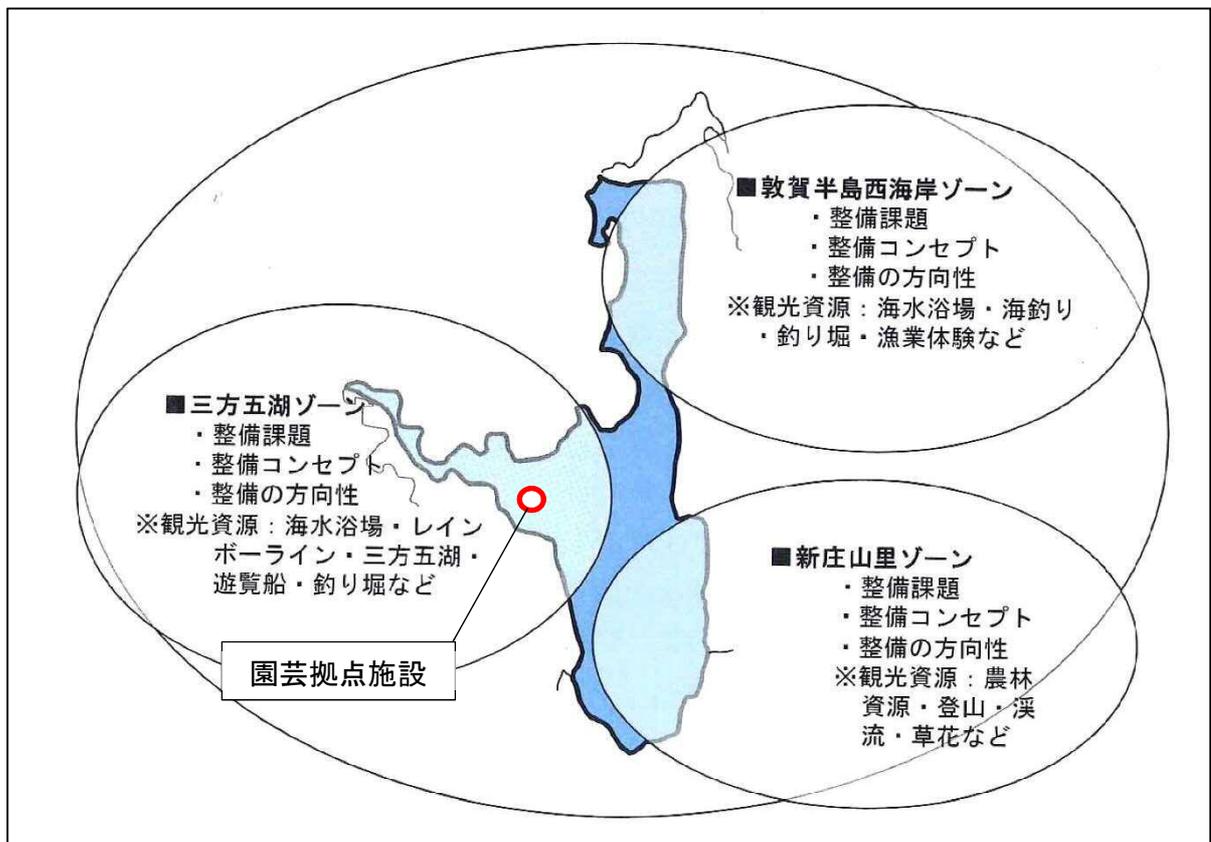
- ①町民が美しい自然を誇るまちづくり
- ②来訪者が食や食を生み出す自然、人の営み、もてなしに感動・感嘆するまちづくり
- ③来訪者が美浜ライフを楽しめ、町民も喜びに思うまち
- ④上記①～③を推進する観光まちづくり振興推進組織体制の確立

<定量的な目標>

- ①旅館・民宿の稼働率アップ（10.3%〔H24〕→20%〔H35〕）
- ②観光入り込み宿泊客数の増大（67千人〔H24〕→131千人〔H35〕）
- ③観光入り込み客数の増大（828千人〔H24〕→1,350千人〔H35〕）

<福井県園芸センターの位置づけ>

福井県園芸研究センターについては、「三方五湖ゾーン」に位置づけられ、その方向性として、「産業研究・研修施設の活用促進」が掲げられている。



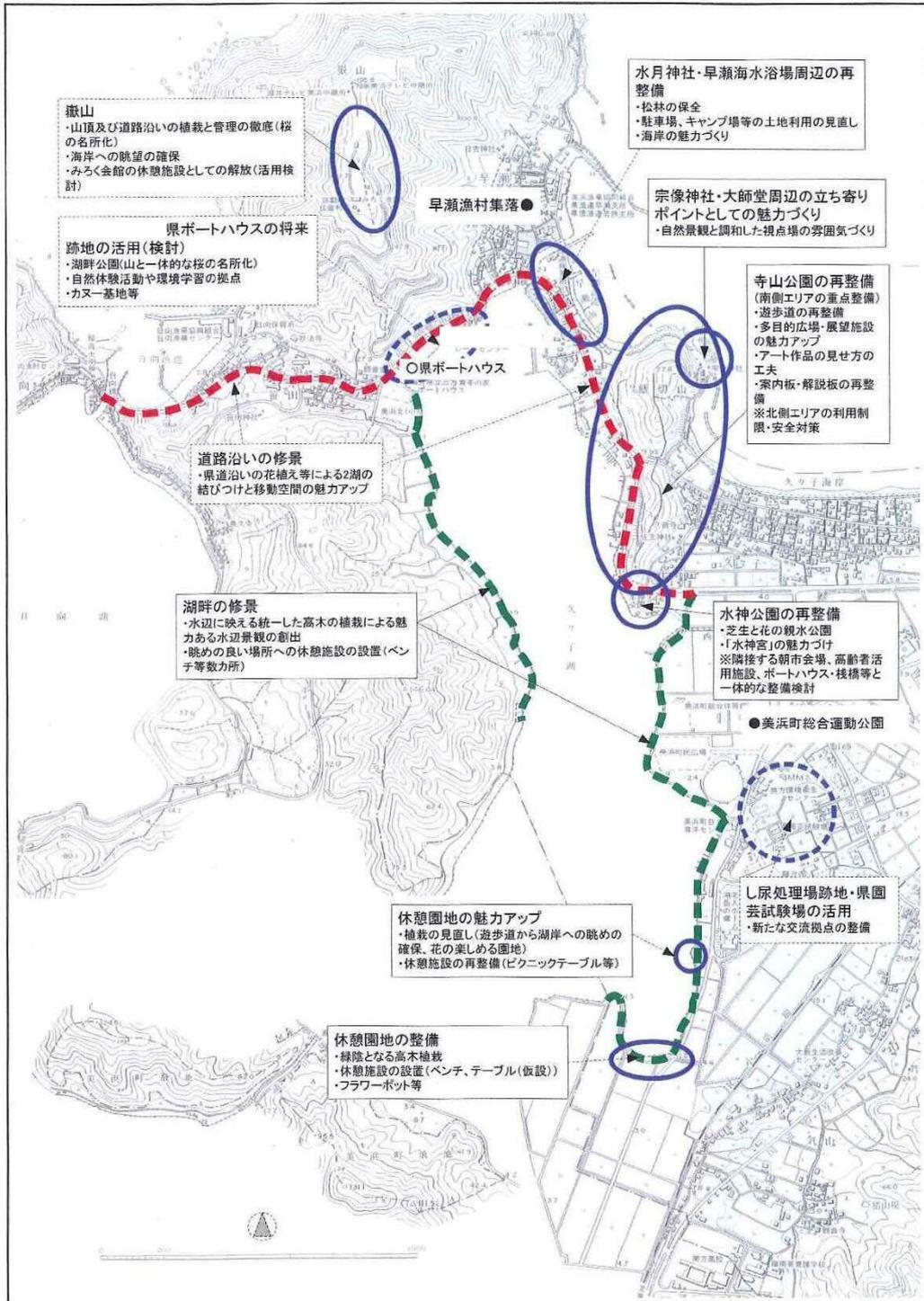
③美浜町三方五湖ゾーン整備計画 (H28.3)

<久々子湖周辺コンセプト>

環境と調和した多彩な観光レクリエーション魅力の海湖（うみ）

<福井県園芸研究センターエリアの位置づけ>

福井県園芸研究センターの整備の方向性として、「し尿処理場跡地・県園芸試験場の活用」、具体的には新たな交流拠点の整備が位置づけられている。



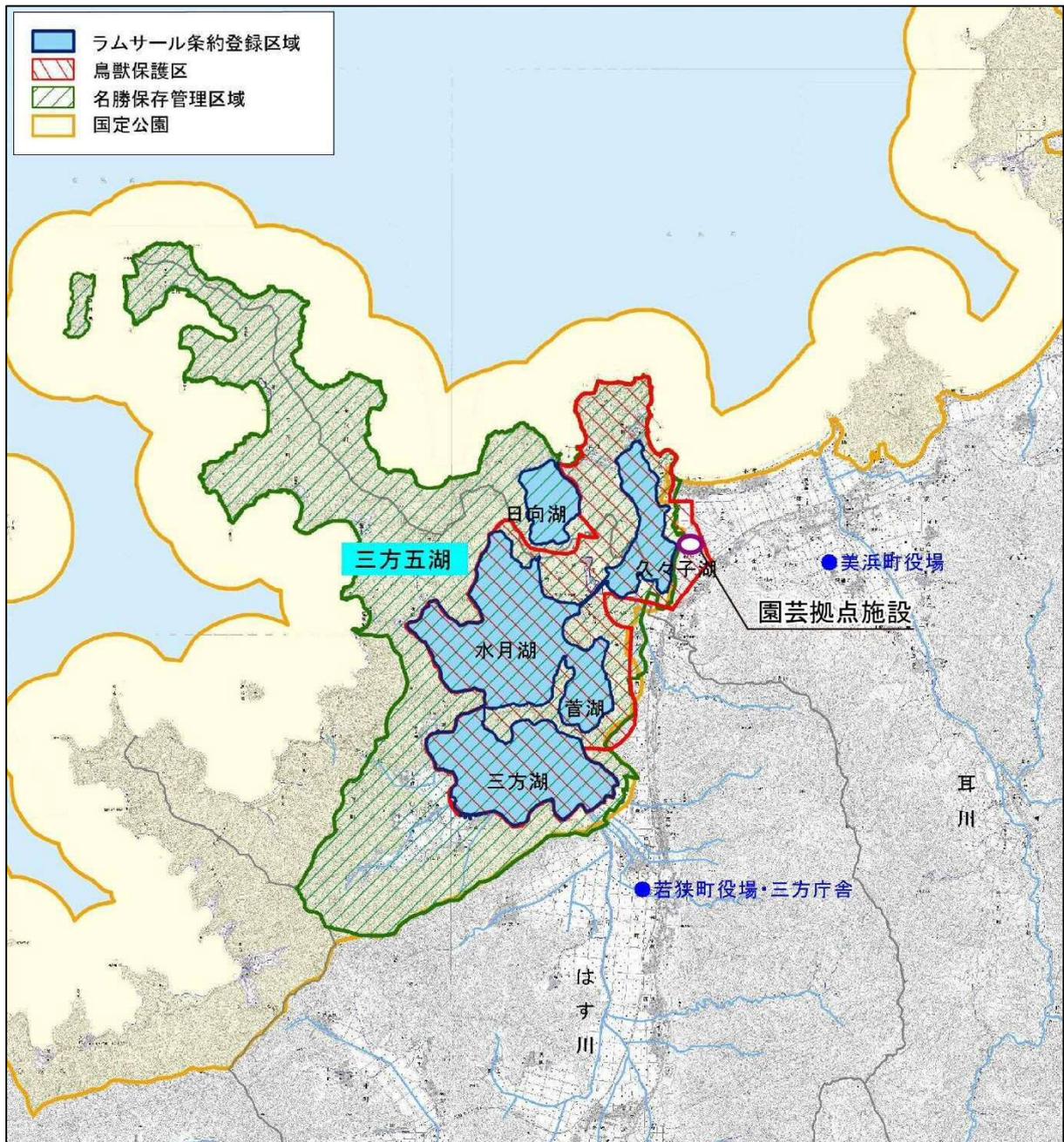
(4) 法規制状況

三方五湖周辺は、若狭湾国定公園区域をはじめとする自然環境関連の区域指定が行われている。

対象地一帯は、鳥獣保護区に指定されている。

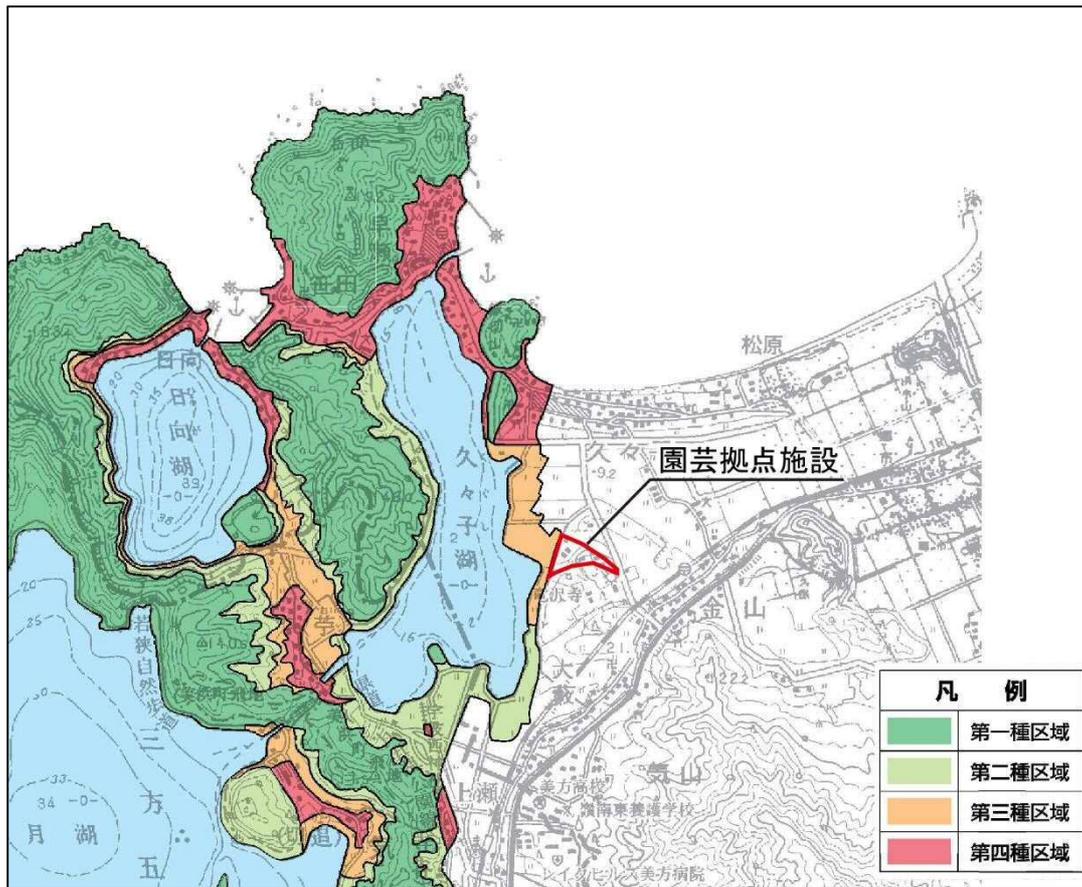
また、敷地の西側一部が名勝保存管理区域（第3種区域）に指定されている。

■ 法規制状況 ■



資料：『三方五湖自然再生全体構想』より抜粋・加工

■ 名勝「三方五湖」指定区域 ■



資料：『名勝「三方五湖」保存管理区域図』より抜粋・加工

(5) 県園芸研究センターの概況

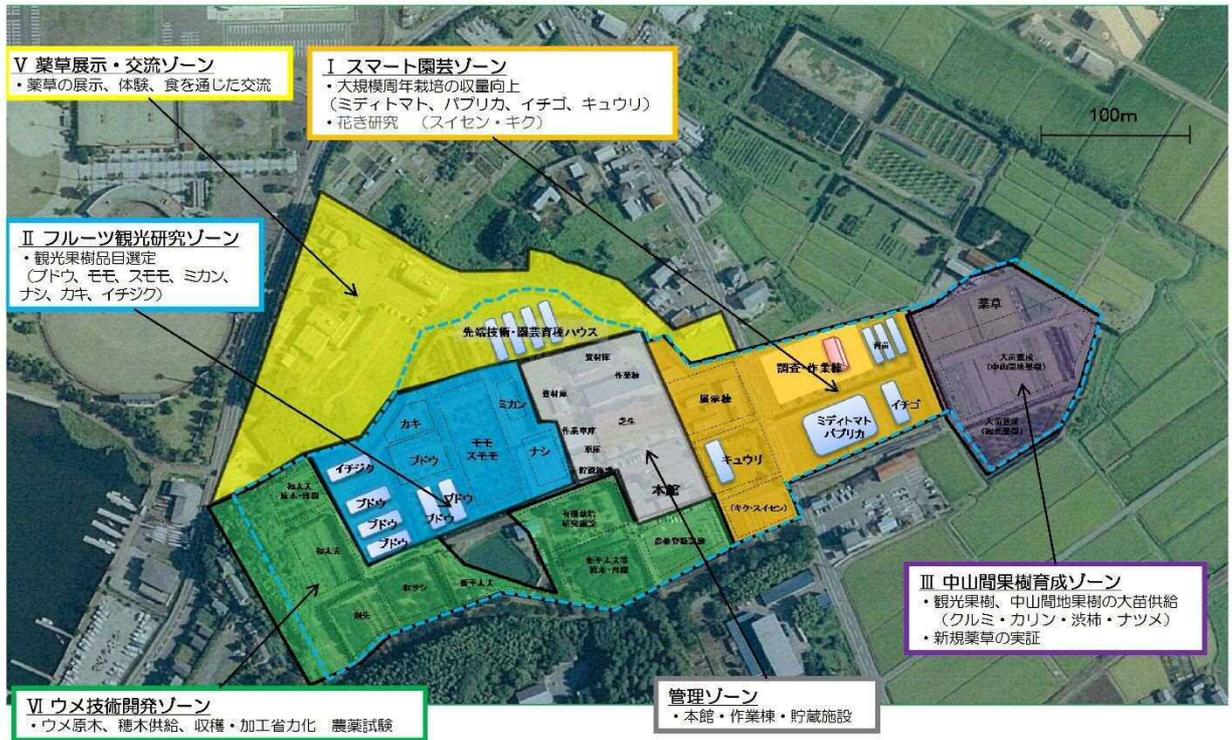
福井県園芸研究センターは、園芸産業の着実な発展を推進するため、ウメを中心とした果樹をはじめ、野菜・花卉の生産に寄与する高品質安定生産技術の確立、新品種の開発に取り組んでいる。

また、産学官連携を積極的に活用し、独創的・先進的な研究にも力を入れている。

■ 組織体制と主な研究業務内容 ■

嶺南管理課	センター運営・管理、庶務一般、園芸教室
ウメ・果樹研究グループ	ウメの生産安定技術と低コスト・省力作業体系等の確立に取り組んでいる。また、ブドウ・モモなどの特産果樹において、福井県の気候・土壌条件に適した品種選定や栽培方法の確立に取り組んでいる。
野菜研究グループ	スペシャルミディトマトの新品種の育成や、薬草栽培技術の確立等に取り組んでいる。
スマート園芸研究グループ	大規模園芸施設におけるミディトマト・パプリカ・イチゴの栽培技術の確立、省エネ省コスト・エコ園芸の技術開発研究等に取り組んでいる。
花き園芸グループ	ふくいオリジナルキク品種の開発やスイセン栽培技術の確立等に取り組んでいる。

■ 敷地概況 ■



3. 基本的な考え方

3-1. 基本方針

《テーマ》

らくぜん 楽膳の里

「楽膳」とは、日々の食事によって健康を取り戻し、身も心も穏やかにする「食養」を目的とした健康料理

● 「食」を通じた、様々な体験・交流・学習・農泊を促進

福井県ゆかりの石塚左玄の「食育」を基本に、身近に植生する季節の野菜や薬草を採集し、加工体験や食体験を目玉とする。

*石塚左玄：旧福井藩士。日本で初めて「食育」「食養」の理論を提唱した人物。



「食育の祖」
石塚左玄

- 食を通じた、野菜や果物、農業（園芸）に関する交流体験
- 子供のみならず、親子2世代を含めた体験・交流の場の提供
- 平日の集客を図るため、小中学校等の課外教室の場の提供
- 食材の効能・効用を考慮した、四季折々のオリジナルメニューの提供
- 園内（展示園・果樹園・ハウス）で栽培している食材や、園芸 LABO の体験実習で用いた食材をレストランで提供
- 県内外からの集客により、農家民宿などへの農泊を促進

3-2. 導入機能

『楽膳の里』のテーマのもと、「展示」・「学習」・「交流」の3つの基本機能をベースに、施設整備を行う。

①展示

薬草展示園

- 身近に自生している薬効のある植物展示（非医薬品薬草）
 - ・薬効のある野菜
 - ・薬効のある草花
 - ・薬効のある樹木

展示ハウス

- ふくい百歳やさい、注目の野菜などの展示
 - ・ふくい百歳やさい
 - ・注目の野菜 など

福井ゆかりの果樹園

- 松平試農場で栽培され県内に広まった果樹など福井ゆかりの果樹を展示
 - ・モモ、ブドウなど

②学習

園芸LABO

- 展示園やハウスで採集できる作物や野草などを材料に食や園芸に関する体験活動
 - ・加工体験（食、園芸）
 - ・バイテク学習体験 など

③交流

直売所

- 地域の農林水産物、農産加工品等の販売
 - ・地元農産物等の販売
 - ・園芸研究センターで栽培している作物（新品種等）販売
 - ・ハーブ、薬草グッズの販売 など

レストラン

- 「ふるさと薬膳」をコンセプトに、地のもの、旬のものを提供
 - ・美容と健康に効果のある薬膳料理・健康料理の提供
 - ・地元産材を用いた伝承料理の提供

交流広場

- 来訪者の憩いの場として整備
 - ・恐竜王国ふくいにちなんだ恐竜トピアリーの展示
 - ・屋外体験・イベントスペースとしても活用

3-3. 「戦略作物」による高付加価値化

若狭地区の伝統ある「福井梅」をはじめ、県内、嶺南、美浜町の目玉となる作物の提供による魅力創出を図る。

- 「福井梅」を主人公に、新たな推進品目である果樹品目にスポットを当てる
- 地元の海の幸、山の幸、若狭牛などとセットにした作物の提供による付加価値化
- 「汽水カキ」など将来に向けた戦略作物の育成



<福井梅>



<ビワ>



<ナシ>



<イチジク>



<ブドウ>



<モモ>

3-4. 「リピーター」の取り込み

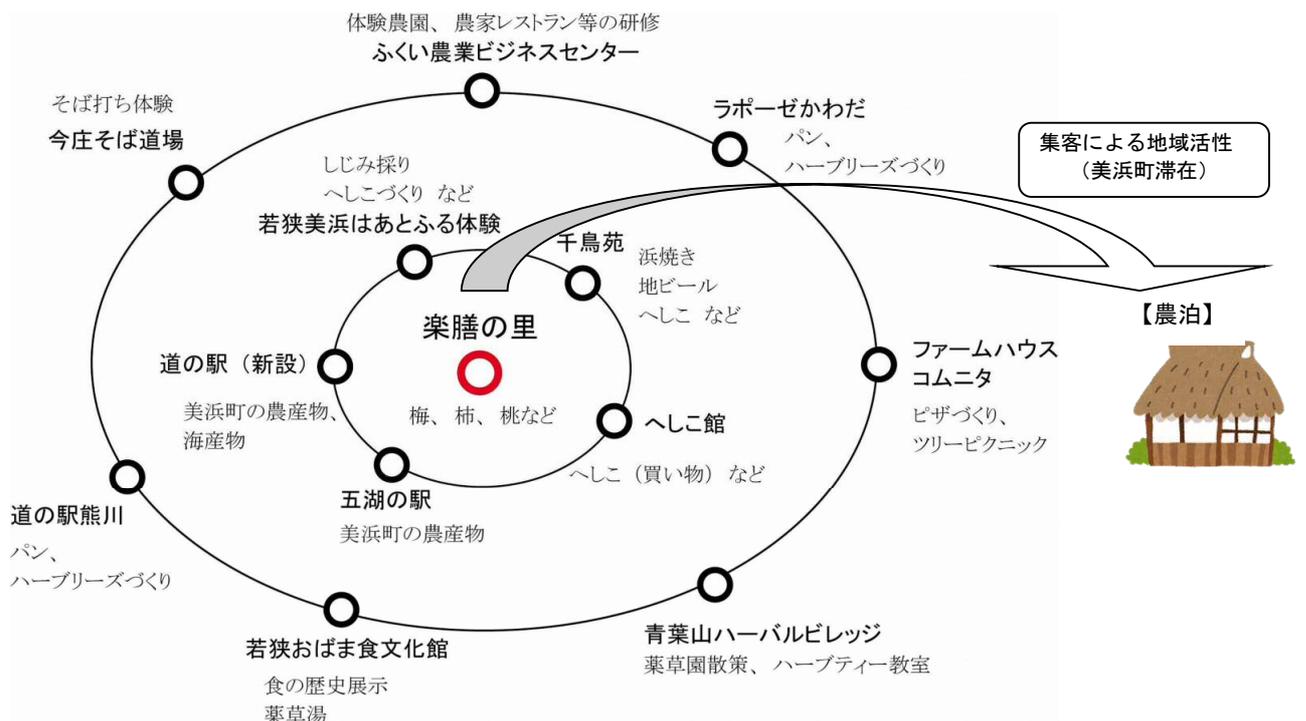
買い物を中心に「リピーター」への満足度向上を図る。

- 魅力ある商品品揃えによる「買い物」利用者のリピート率を向上
- ネット通販の充実による販路開拓も検討

3-5. 「広域集客」の拠点による地域活性

「楽膳の国ふくい」構想の拠点施設として、県内外から広域的に集客を行う。

- 福井県、嶺南、美浜町の周辺施設と連携した集客



4. 施設配置計画

4-1. 敷地概況

計画地は約 2.3ha の敷地で、平成 29 年 4 月からの解体工事を予定している美方屎尿処理施設や、園芸研究センターからの雨水を受ける排水路がある。また、計画地の中央付近には美浜MMネット社が隣接している。

計画地の現状を把握するために現地調査を行い、その結果を課題として整理するとともに、次頁に「敷地特性図」としてまとめる。

計画地の現状

- ・ 県道 215 号からのアプローチが良くない。
- ・ 梅街道沿いには約 6m の高い擁壁があり、道路と計画地の高低差が大きい。
- ・ 梅街道沿いの擁壁天端の防風林が湖への眺望を妨げている。
- ・ 計画地の中央に排水路があり、敷地を分断している。
- ・ 梅街道沿いの L 型擁壁は沈下し。天端が傾斜している。
- ・ 園芸育苗ハウスは地中熱を利用しており、地下約 1.5m に配管がある。
- ・ 梅街道側には久々子湖への眺望が良い場所がある。

課題の整理

- ◇アクセス面—— 県道や梅街道からスムーズに侵入できる進入道路が確保されていない。また、地中熱の地下配管に影響のないルート選定が必要である。
- ◇敷地面—— 敷地を有効的に活用するために、分断している排水路の暗渠化や道路側溝兼用化等の対策が必要である。
- ◇安全面—— 危険性のある擁壁は撤去し、建物等への安全性を確保することが必要である。
- ◇眺望面—— 防風林の間引きや久々子湖への眺望の良い場所を、配置計画に反映させることが必要である。

計画地の敷地特性図

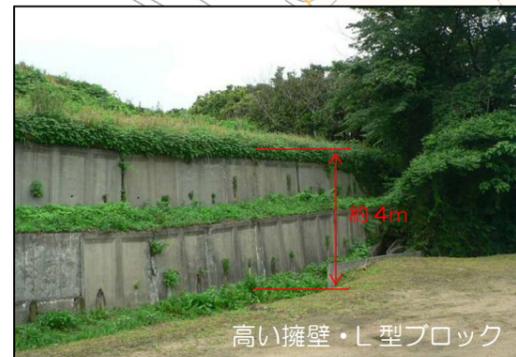
美浜総合運動公園



擁壁沿いの緑が外への眺望を妨げている

道路と敷地の高低差が大きい

排水路で敷地が分断されている



道路沿いに高い擁壁がある

雑木林

雑木林

美浜・美方環境衛生組合跡地

園芸育苗ハウス

水田

※L型擁壁は沈下し、天端が傾斜している

ハウスに地熱利用(配管 1.5m 下)

県道からのアプローチが悪い

久々子湖

久々子湖への眺望がよい

福井県園芸研究センター

園芸研究センター

雑木林



若狭美浜海洋センター

関西電力艇庫

至三方

至敦賀

若狭梅街道(広域農道)

至梅街道

県道215号 久々子・金山線

美浜MMネット



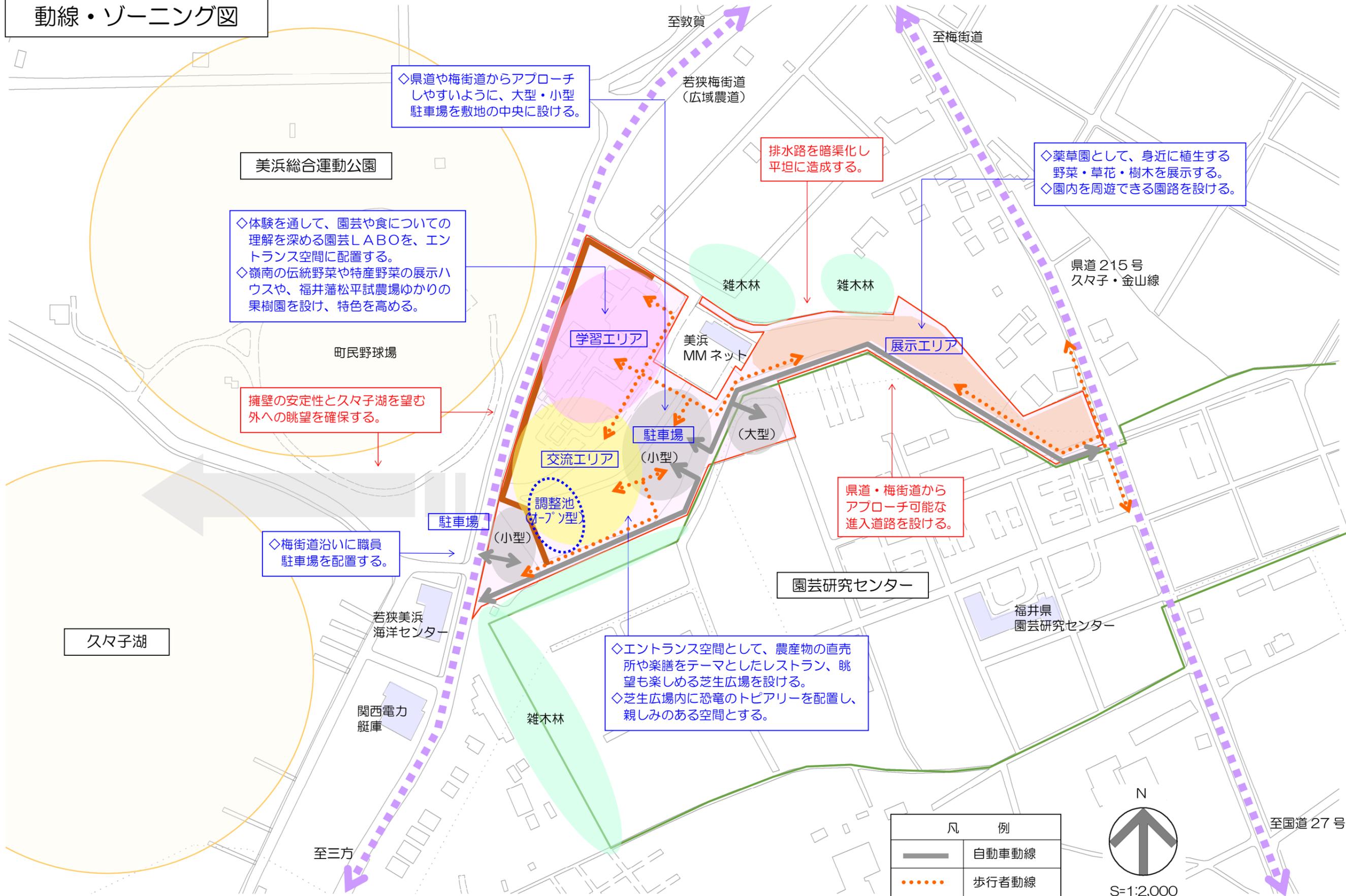
至国道27号

4-2. ゾーニング

基本方針を踏まえ、各施設の配置計画を次のとおりとするとともに、次頁に「動線・ゾーニング図」としてまとめる。

全体ゾーニング計画	
アクセス・ 駐車場計画	<p><アクセス></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇県道と梅街道からアクセス可能な進入道路を、制約物件（園芸育苗ハウスや防風林）に支障とならないように配置する。（道路幅員 7m 程度） ◇進入道路の側溝を既設排水路と兼用させ、敷地の有効利用を図る。 <p><駐車場></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇県道や梅街道からアプローチしやすいように、敷地の中央に配置する。（大型 5 台・小型 63 台・身障者 2 台）
エリア 配置 計画	<p><エリア配置></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇中央の駐車場を囲むように各エリアを配置し、園路で動線を確保することで利用面に配慮する。 <p><展示エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇薬草園として、身近に植生する野菜・草花・樹木を配置し、様々な薬草が楽しめるように、園内を周遊する園路を設ける。 <p><学習エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇園芸 LABO を駐車場近くに配置し、エントランス機能を高める。 ◇園芸 LABO 周辺に展示ハウスと福井ゆかりの果樹園を配置し、特徴を高めるとともに、内と外との一体的な利用を図る。 <p><交流エリア></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇直売所・レストランを駐車場近くの眺望の良い場所に配置し、エントランス機能を高めるとともに、園芸 LABO と連携した施設利用を図る。 ◇直売所・レストラン横に芝生の交流広場を設け、屋外の多目的利用を図る。
その他	<p><調整池></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇計画地の低地部に調整池を配置し、治水の安全性を確保する。 ◇調整池を修景することで、直売所・レストランからの威圧感を軽減する。 <p><梅街道沿いの駐車場></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇周辺住民の利用も兼ねた職員駐車場を梅街道沿いに配置し、進入道路横に園路を設けることで動線を確保する。

動線・ゾーニング図



◇県道や梅街道からアプローチしやすいように、大型・小型駐車場を敷地の中央に設ける。

◇体験を通して、園芸や食についての理解を深める園芸LABOを、エントランス空間に配置する。
◇嶺南の伝統野菜や特産野菜の展示ハウスや、福井藩松平試農場ゆかりの果樹園を設け、特色を高める。

擁壁の安定性と久々子湖を望む外への眺望を確保する。

◇梅街道沿いに職員駐車場を配置する。

◇エントランス空間として、農産物の直売所や楽膳をテーマとしたレストラン、眺望も楽しめる芝生広場を設ける。
◇芝生広場内に恐竜のトピアリーを配置し、親しみのある空間とする。

排水路を暗渠化し平坦に造成する。

◇薬草園として、身近に植生する野菜・草花・樹木を展示する。
◇園内を周遊できる園路を設ける。

県道・梅街道からアプローチ可能な進入道路を設ける。

凡 例	
	自動車動線
	歩行者動線



イメージ図（全景）



イメージ図（薬草展示園側）



イメージ図（建物周辺）



イメージ図（建物周辺）



イメージ図（梅街道側）



5-2. 園芸LABO

【基本方針】

園芸について理解を深める「農」・「食」・「健康」などの体験学習を行う場所として整備する。

主に、以下の活動内容に対応した施設構成とする。(第6章参照)

- ①園芸体験 (ガーデニング・花卉園芸体験、薬草・ハーブ関係講習等)
- ②工芸体験 [若狭美浜はあとふる体験]
- ③加工体験
- ④調理体験 (薬膳料理、郷土料理等)
- ⑤学習体験 (バイオテック・理科実習)
- ⑥その他

- ・学校教育・実習 (園芸体験・工芸体験、加工体験、学習体験)
- ・サークル活動 (任意サークルや学校の部活動)

教育実習受け入れを想定し、1学年(3クラス)程度の受け入れ可能な規模とする。

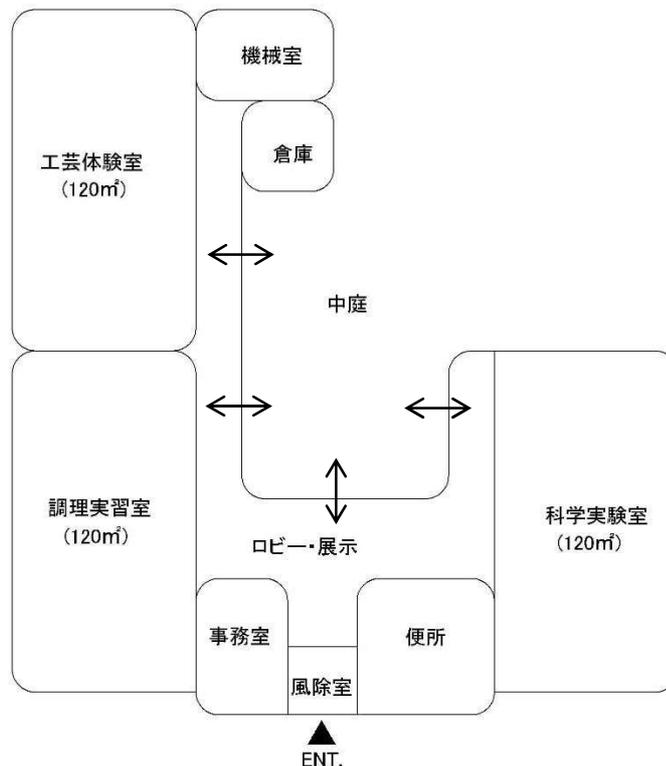
【整備方針】

展示コーナーの展示物及び外部ハウス、薬草見本園との連携を図り、屋内学習と屋外学習を結びつける。

集成材(木材を組み合わせて断面を大きくした木材料)の使用により柱スパンを大きくし、学習及び各種体験実習に対応する。

周囲の自然環境に溶けこませるため、木質材料を積極的に使用する。

■ 建物ゾーニング ■



5-4. 福井ゆかりの果樹園

【「りんごの父」松平春嶽】

幕末から明治初期に掛けて活躍し、幕末四賢侯の一人として謳われている越前福井藩第16代藩主松平慶永（春嶽）は、文久二年（1862）、アメリカからリンゴの苗木を取り寄せ、江戸（巣鴨）下屋敷に植えたとされる。その後津軽地方がリンゴ栽培に適していることを見抜き、津軽藩にリンゴの栽培を勧め、リンゴ苗木を送ったとされている。

資料：福井藩巣鴨下屋敷のリンゴをめぐる、柳沢芙美子



松平春嶽
(1828~1890)

画像：国立国会図書館蔵

【松平試農場の概要】

松平試農場は、明治26年（1893年）、松平春嶽の孫に当たる越前松平家第18代当主松平康荘（やすたか）により、福井城址に創設した。大正10年（1921年）に県庁舎新築のため圃場を移転するまで、福井城址は試農場として、様々な果樹、蔬菜などの農作物が育てられた。

資料：松平試農場史

福井県（農林水産部）



松平康荘
(1867~1930)

■ 松平春嶽、康荘および松平試農場の変遷 ■

年表	松平春嶽、松平康荘 松平試農場関係	園芸研究センター関係
文久2年 (1862)	松平春嶽、福井藩巢鴨下屋敷に西洋リンゴの苗木を植える	
年代不明	松平春嶽、津軽藩にリンゴ栽培を勧めたとされる	
明治19年 (1886)	松平康荘、英国サイレンセスター王立農学校留学	
明治23年 (1890)	松平康荘、第十八代当主となる	
明治26年 (1893)	松平康荘、旧福井城本丸・二の丸・三の丸内に松平試農場開場	
明治33年 (1900)		農事試験場開場（福井市町屋）
明治37年 (1904)	松平康荘、大日本農会会長に就任	
明治39年 (1904)	松平試農場に園芸伝習所を併設し、全国より伝習生を募集する	
明治44年 (1911)	松平試農場（三の丸）に温室を建設	
大正4年 (1921)	松平康荘、日英博覧会にて研究論文「柿の栽培」出品、名誉賞を受賞	
大正10年 (1921)	県庁舎新築のため城内の圃場を売却し金津町山室に移転	
昭和13年 (1938)		福井県農事試験場嶺南試験地が美浜町に設立（昭和36年に現在地に移転）
昭和31年 (1956)	試農場廃止、山室農場を坂井農業高校へ移管	
昭和47年 (1972)		福井県園芸研究センターとして発足 主に果樹、野菜、花卉生産の研究を行う

資料：福井藩巢鴨下屋敷のリンゴをめぐる、柳沢芙美子
松平試農場史
福井県（農林水産部）

■ 松平試農場栽培品目（明治42年〔1909年〕） ■

品目	面積 (ha)
全耕地面積	4.00ha
果樹園	
りんご	1.10
桃	0.76
なし	0.40
柿	0.18
ぶどう	0.14
すもも	0.11
びわ・いちじく・桜桃・あんず等	0.11
蔬菜	
かぶら・ほうれんそう等	0.80
鑑賞植物園	0.40

資料：福井県（農林水産部）

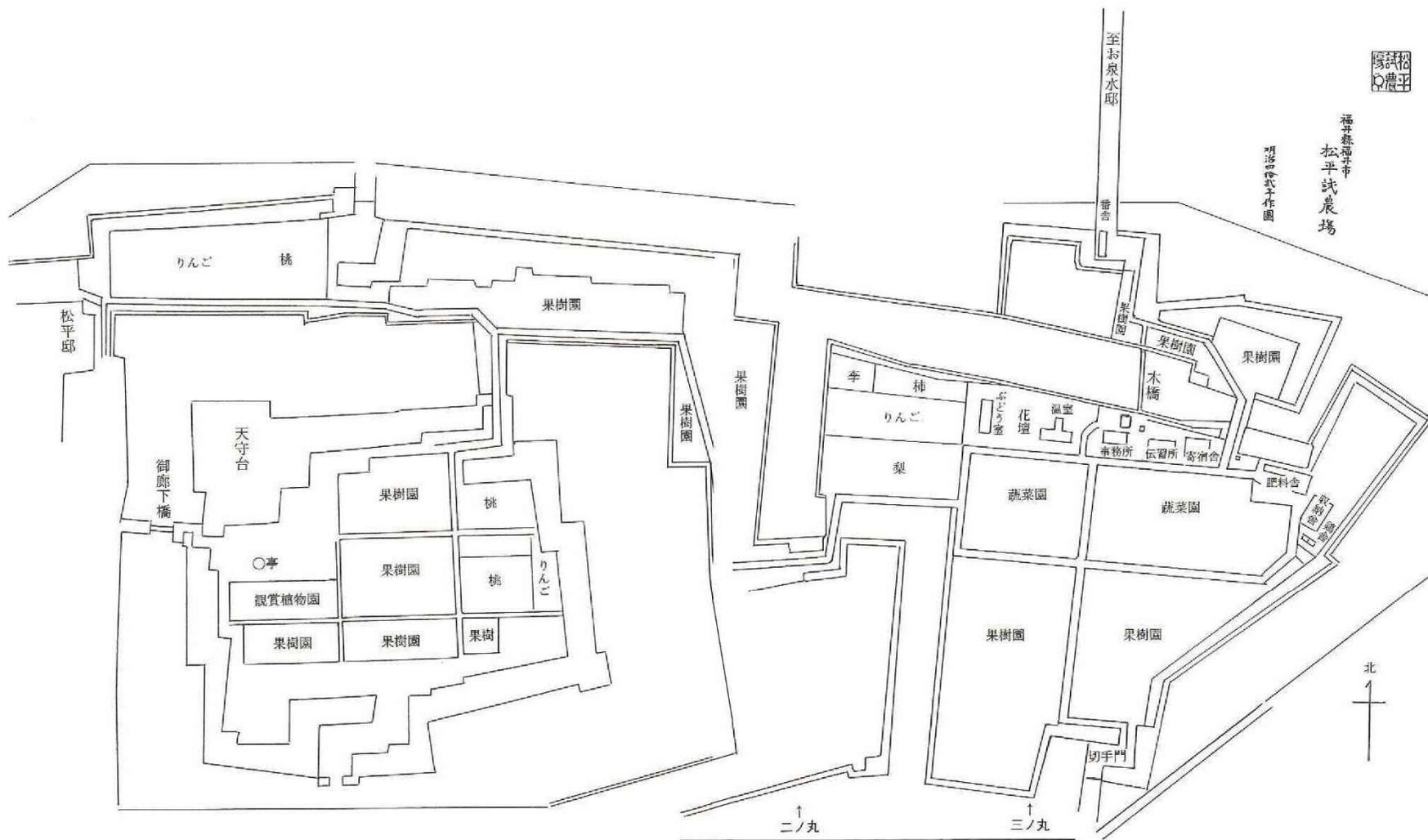
■ 園芸産物収穫量比較（松平試農場） ■

品名	年度
桃	明治四十三年度（一九一〇） 一、二〇三貫余
りんご	八四〇貫余
梨	五三二貫余
ぶどう	三八四貫余
すもも	二五三貫余
柿	二二七貫余
きゅうり	一、四〇〇余本
じゃがいも	一、一六三貫余
うるちまい 粳米	九俵
大豆	二石〇八升
あずき	一石五斗九升
うど	一九貫六〇〇匁
菜豆	六四貫七五〇匁
かんらん	七一三個
	大正十年年度（一九二一） 一、一三八貫
	〇
	一二四貫二五〇匁
	二〇六貫一〇〇匁
	〇
	一二五貫一〇〇匁
	五四七本
	六六〇貫二〇〇匁
	九俵
	二石〇八升
	一石五斗九升
	一九貫六〇〇匁
	六四貫七五〇匁
	七一三個

註（粳米とは、もち米のような粘りけのない、普通米のこと）

資料：松平試農場史

■ (参考) 明治 42 年 (1909) の松平試農場 (福井城址) の作付図 ■



■ (参考) 明治末期～大正初期の松平試農場写真 ■

伝習生の
剪定実習↓

事務所↓

伝習所↓

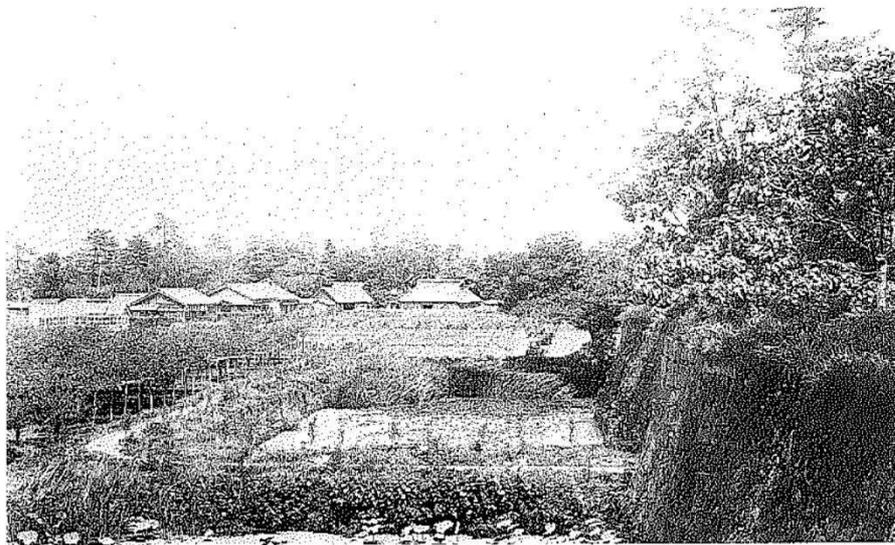
寄宿舎↓

肥料舎↓

収納舎↓



松平試農場全景（明治末期 福井城跡三ノ丸）



（松平家蔵）

温室

事務所

伝習所

寄宿舎

肥料舎

収納舎

鶏舎

三ノ丸切手御門石垣
（大正初期）

資料：松平試農場史